

課題実習ガイダンス 1

実習 1 - 1 「相談支援（ケアマネジメント）の基礎技術に関する実習 1」

実習 1 の概要

(1) 実習 1 の課題内容

以下の 2 点について課題実習を行ってください。

- ① 実践例を 1 例選定し、ケアマネジメントの一連の流れ（アセスメントまで）を実習する。
- ② 所属事業所がある圏域または地域の状況を知るための社会資源（地域資源）の調査を行う。

(2) 課題実習・作成時の注意点

- ① 課題実習に必要な書類は、長野県相談支援専門員協会ホームページからダウンロードして頂き、作成してください。

特定非営利活動法人長野県相談支援専門員協会サイト <https://nagano-soudan.com/>

② 全ての課題作成は「パソコン入力」を厳守してください。

（但し、やむを得ない場合はこれに限らない。その際はボールペンで記入すること）

- ③ 課題様式内のフォント（文字）サイズや改行幅などのレイアウトは変更しないでください。
- ④ 記載する文量に指定がある場合は厳守し、過不足なく記載してください。
- ⑤ 全ての課題様式は「A4サイズ」で印刷してください。
- ⑥ 全ての課題様式にそれぞれ「圏域名」と「氏名」を記入する欄が設けてあります。忘れずに記入してください。
- ⑦ 全ての課題の原本は、ご自分で保管しておいてください。
- ⑧ 作成した課題一式を研修事務局にご提出いただきます。これは研修修了要件のひとつになります。ご提出いただいた課題は返却いたしません。細心の注意をもって取り扱います。
- ⑨ 作成した課題一式は今後の演習で利用してゆきます。利用する前には演習グループメンバーと演習講師に課題一式を配布していただきます。全ての研修日程が終了した後、配布した課題一式についてはご自身で全て回収しお持ち帰りください。

(3) 留意事項

- ① 本実習は、法定で定められた研修カリキュラムの一環で、必須の科目であり、修了要件の一つです。以下の場合は本実習を修了したと認定されませんのでご注意ください。

- 指定された課題様式を提出しない場合（課題を期日までに提出しない場合を含む）。
- 提出した課題様式に不足があった場合。
- 課題の再提出や修正の指示を受け、従わなかった場合（例：空欄が多すぎる場合等）。
- この「実習」に基づく発表を、今後の演習「実践研究 1」「実践研究 2」において行わなかった場合。

実践例の選定方法

(1) 以下の①～③全てに該当する実践例（利用者）を選定すること。

① 実際に自分自身が現在進行形で関わっている利用者であること。

→ どうしても自分の実践例が選定できない受講者は、地域の基幹相談支援センター等において実際の事例で実習させてもらえるよう相談する。

② ケアマネジメント技法を用いた支援に適する利用者であること。

例) ○ 地域生活(在宅生活)、入所・入院からの地域移行に関する支援の対象者であること。

・入所・入院にむけた支援、入所・入院の継続支援に関する実践例は不可となります。

○ 実習期間内にゴール設定ができるか、あるいは既にできている利用者であること。

○ 地域の複数の社会資源を活用している(したい)利用者であること。

○ ひとつ以上の障害福祉サービスを利用している(したい)利用者であること。

③ 自らが何らかの課題意識でアセスメントを(再)検討してみたい、アセスメントについて他者の意見を聞いてみたい利用者であること。

※注) 以下に挙げる利用者を選定することは避けること(実践例再選定の上再提出となります)。

- 緊急性の高い事例、危機介入の必要な利用者。虐待は疑われる事例も含めて不可とします。
- 研修の期間中に関係性の構築が困難な利用者、研修の期間中に会うことが困難な利用者。
- 現在のところ本人のゴールがない、本研修の期間中に定まりがたいと想定される利用者。

★ 実際の支援の中では上記のような利用者も当然おられるはずですが、今回は初任者研修の獲得目標・研修意図から、避けていただくものです。

(2) 注意事項

① 実践例提出にあたっては本人等の同意を得てください。

② 課題様式作成に当たっては、本人等が特定できる可能性のある情報をすべて伏せてください。

例 ・本人、家族、関係機関はすべて仮名(例:「○男さん」や「○○病院」)にすること。

・住所は「○○市」や「○○町(○○郡は記載しないこと)」とすること。

・生年月日は生年のみ(例:昭和30年)とすること。

・電話番号は一切記入しないでください。

・例年、現実的な仮名や仮の電話番号を記載している事例が散見しております。また誤って本名等を記載してしまっている事例も確認されています。このような事例については再提出とさせていただきます。一切お止めください。

実習① ～実施方法・留意事項～

実習①：「実践例を1例選定し、ケアマネジメントの一連の流れを実習する」

→ 演習2 「実践研究1」で扱います

(1) 実施内容

- ① 実践例を1例選定し、実際に訪問等を行ない、アセスメントを行なう。
- ② 以下の①～⑤の5種類の様式を作成する。

〔 概要に関する様式 〕

- ① 実践例の概要

〔 アセスメントに関する様式 〕

- ② アセスメント票①
- ③ アセスメント票②
- ④ ワークシート2 (本人のストレングス)
- ⑤ ワークシート3 (ニーズ整理票)

(2) 課題資料の準備・報告の準備

実習後再開される研修カリキュラム「実践研究1」において、実習で関わった実践例を使い、演習グループ内での検討を行います。

- ① 課題①～⑤一式を1部として、演習グループメンバー分、演習講師分1部を各自で印刷し、**演習3日目にご持参ください。**

- ② 「7分間」で以下の要領で「事例の概要」を発表できるように準備しておいてください。

- ① 本人像の要約 (状況を簡潔に) ← 100字要約
- ② 本人との関わりの経緯
- ③ 本人の(と)定めたゴール ← ニーズ整理
- ④ 本人のゴール達成に向けての課題・スモールステップ ← ニーズ整理
- ⑤ 活かそうと考えた本人のストレングス (支援の根拠)
- ⑥ 実践例の選定理由 (自らの課題意識)

(3) 留意事項

- ・発表時は主に「ニーズ整理票」を用いて報告する。
- ・所内の会議で簡潔に報告する設定であると想定し、単なるシートの読み上げにならないように、端的に報告してください。

実習② ～実施方法・留意事項～

実習②： 所属事業所がある圏域または地域の状況を知るための社会資源（地域資源）の調査を行う。

→ 演習3 「実践研究2」で扱います

（1）実施内容

- ① ご自身が普段業務を行っている圏域または地域には、どのような社会資源（地域資源）があるのかを調査する。
- ② 以下の⑥「社会資源調査票」を作成する。

〔地域資源に関する様式〕

⑥ 社会資源調査票

（2）留意事項

- ① 社会資源や地域の課題について、よくわからない場合は、自治体や基幹相談支援センター等に質問してみることもよいでしょう。

実習①② 共通

（1）実習課題の提出

- ① 作成した課題①～⑥を、課題①が一番上になるように順番に重ね、ゼムクリップで左上を留めた状態のものを、研修事務局へ1部提出してください。ホチキス止めはしないでください。
- ② **演習3日目に提出してください。**

（2）留意事項

- ① 下記の通り、課題提出後に修正・再提出となるケースがありますのでご注意ください。

【再提出のケース】

- ・サービス等利用計画の対象とならない事例
- ・介護保険のみの福祉サービスを利用するケース
- ・障害者総合支援法上の介護給付、訓練等給付の利用がないケース

【修正のケース】

- ・様式全般の記載が不十分
- ・「ワークシート3（ニーズ整理票）」の「支援課題」、「対応・方針」と「サービス等利用計画案」の「解決すべき課題（本人のニーズ）」、「支援目標」の連動がなく、サービス等利用計画立案の根拠が不明。
- ・「サービス等利用計画」というより「個別支援計画」となっている。
- ・「サービス等利用計画」内「福祉サービス等」欄への記載が不十分
- ・現実的な仮名や仮の電話番号を記載している事例
- ・誤って本名等を記載してしまっている事例
- ・「ワークシート3（ニーズ整理票）」内の「専門的アセスメント」を福祉職へ依頼する

実習期間（課題提出）についてよくある質問

- Q 1 入所施設に勤務しているが、過去に退所事例を扱ったことがない。
退所を検討中の事例はあるが、完全に退所の意思が定まっているわけではない。
どのように計画書を作成すればよいか。
- A 1 地域移行が確定した事例を提出することが困難である場合、「地域移行の可能性を視野に入れつつ今後の方向を検討中であるが、まだ具体化していない事例」を採りあげることが可とします。ただし、ケアマネジメントの手法が前提にあり、御本人の可能性を最大限発揮することが念頭に置かれている必要があります。
- Q 2 入所施設に勤務しているが、自分が担当している事例で、他機関との連携を取って支援に当たった事例がない。そのような場合、サービス利用計画書の内容が、施設内の支援のみになってしまうが、それは差し支えないか。
- A 2 今回の課題提出では、ケアマネジメント手法を基に目標を立て、サービス等利用計画を作成することが求められます。基本的には施設内での処遇にとどまらず、御本人を取り巻く環境への働きかけも含めた支援を念頭に入れて作成していただくこととなります。
- Q 3 ケアマネジメント手法を用いるということであるが、自分はこれまで相談支援専門員として勤務したことがなく、ヘルパーとしてかかわってきた。事例はどのような立場で作成すればよいか。
- A 3 原則として、提出者ご本人の立場にかかわらず、ご自身を「ケアマネジメントのマネージャー」とした視点で作成していただくこととなります。

【参考図書】

- ・「相談支援専門員のためのサービス等利用計画作成事例集」埼玉県相談支援専門員協会 編・著
- ・「障害のある子の支援計画作成事例集」日本相談支援専門員協会 編・著

【参考サイト】

- ・「サービス等利用計画作成サポートブック」日本相談支援専門員協会 編・著
ダウンロードサイト http://nsk09.org/_src/sc476/keikaku_130617.pdf